

1

① 大地

②

当番

③

見学

④ 父方

⑤

用心

2

1 A ウ

B イ

C ア

2 読書

3 エ

4 A イ

B ウ

5 ア 2

イ 2

ウ 1

3

1 A イ

B ウ

2 ア 行
つ
た

イ 山
お
く

3 た
ぶ
ら
か
さ
れ
る

4 イ

5 心
が
さ

6 ひ
と
を

配点

1 各2点×5=10点

2~3 各5点×18=90点

<計>100点

① 「ダイチ」には「台地」もあるが、問題の文に合わない。④ 親せきには「父方」と「母方」がある。漢字の書き取りは、大きくはつきりと書くよう心がけてほしい。

②

1 [A]の後は、「中学生のときには、毎日たくさんの本を読んで過ごしていました」から考えると、予想外の内容である。「もともと、読書が好きだったわけではありません」が続いている。[B]と[C]は、「勉強がたくありません」+「テレビもラジオも、もちろんゲームもなかったから……たいくつ」↓「しかたなく手に取ったのが……本でした」というつながりになっている。

2 「毎日、本を読んでいますか？」ときかれて「困った顔を」するのだから、あまり読んでいないのだろうとわかる。次の段落にも、筆者も「もともと、読書が好きだったわけでは」ないので、「みなさんと変わりありませんよ」と書かれている。

3 線②をふくむ一文を最後まで読むと、この文の組み立てが「これは秘密の話ですが、じつはわたしは宇宙人なのです」のような文と似ていることがわかる。この例文では「これ」は「わたしが宇宙人であること」をさしている。

4 「一石二鳥」の意味は、問いに書かれているとおりである。一つの石を投げて、二羽の鳥をとめることにたとえているのである。まずは「二鳥」から考える。ひとつは「両親のきげんがよくなったこと」だと問いに書かれていた。もうひとつは、きつとこれとらべて書いてあるにちがいない。すると、直前の文に「あつという間に時間が過ぎていく」と書かれているのが見つかる。そもそも、筆者は「たいくつ」で困っていたのだから、これがもうひとつの「良い結果」だろう。もちろん、読書をした結果であるから、「一石」にあたるのは「読書」である。|| 線でいえば、「読みだしてみよう」になる。

5 ア 「宿題もせず」がおかしい。本文中に「宿題は部活の合間に学校ですませてしまえ」と書かれていた。
イ 筆者は、「起きていてもすることがなくてたいくつ」だから、「しかたなく」本を読んだのである。両親が、「勉強をしているとかんちがいして、きげんがよく」なったのは、結果的にそうなっただけで、はじめからねらっていたことではない。
ウ [C]の前後から確認できる。

③

1 [A]は、「きつねのような」「目」とされているが、それだけでは答えは決まらない。この文章できつねはかわいいものとしてえがかれていることをふまえて答える。[B]は「からだをふるわせた」ようすなので、「ぶるっ」が入る。「ぐるっ」だと、「からだをふるわせた」ようすではなく、からだをまわしたようすになってしまう。

2 きつねにたぶらかされた娘さんは「草かりに行ったままもどらなかつた」「山おくの谷川のそばで、はだしで木に登っていた」、「村人を見るとひどくおびえ」たと書かれている。問いの三つの文は、これらをもとにして、少しことばを変えて書かれている。

3 「たぶらかす」ということばは「きつねは……たぶらかす」という形で出てきた。これを「きつねに[]とすればどうなるか、という問いである。

4 三行前のところで「からだをふるわせ」ていたことを思い出そう。このようすと、「ふかくふとんにもぐりこみ」と「じいちゃんのねまきのそでをしつかりとにぎって」は一つの流れになっている。もちろん、今はきつねの声はきこえていないので、エはおかしい。

5 「すきまって？」というみな子の問いにたいしてじいちゃんが答えているところにある。「」を入れずにきちんと二十二字分數えて正しくぬき出すことが大切である。

6 みな子のはじめのしつもんが何だったのかさがすとよい。みな子のことばではじめに出てくるのは「ね、じいちゃん、どうしてきつねは、ひとをたぶらかすの？」であった。